<table>
<tr><td colspan="3">魅力度向上対策特別委員会記録</td></tr>
<tr><td>１ 会議の日時</td><td colspan="2">令和 ３ 年 ５ 月 １１日
開 会 午前 ９ 時 ５７ 分
閉 会 午前 １０ 時 ５５ 分</td></tr>
<tr><td>２ 会議の場所</td><td colspan="2">第１会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３ 出 席 者</td><td>委員</td><td>委員長 玉 田 和 浩 副委員長 野 村 美 穂
委 員 村 下 貴 夫 伊 藤 秀 光 布 俣 正 也
伊 藤 英 生 澄 川 寿 之 平 野 恭 子
平 野 祐 也 小 川 祐 輝 森 益 基</td></tr>
<tr><td>執行部</td><td>別 紙 配 席 図 の と お り</td></tr>
<tr><td>４ 事務局職員</td><td colspan="2">主査 柘 植 健 太 主事 松 本 健 汰</td></tr>
</table>

５ 会議に付した案件

件　　名	審 査 の 結 果
１　令和３年度重点調査項目等について	原案のとおり承認
２　令和３年度所管事務事業の説明聴取について	
３　令和３年度委員会活動について	
４　その他	

６ 議 事 録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから、魅力度向上対策特別委員会を開会する。

最初に、当委員会の運営であるが、委員会が所管する特定分野の中から、テーマを絞り込んだうえで、正副委員長の主導のもと、調査検討を行うものである。

当初、昨年度までの二年間を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指すこととしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、視察を始めとした調査が十分できない状況にあることを踏まえ、調査期間が四年程度に延長されたところである。

委員の皆様には、積極的なご審議をお願いしたい。

さて、本日の委員会は、当委員会に調査を付託されている「魅力度向上対策」に関する事務事業について、執行部の説明を聴取するとともに、本年度の活動についてご審議いただくため、開催したものである。

○玉田和浩委員長

初めに、当委員会の「本年度の重点調査項目」については、５月７日に開催された正副委員長会議で、配布した会議資料「別紙」のとおり、「魅力度向上対策の推進に関すること」に決定されたので、ご承知願いたい。

次に、具体的な調査項目についてであるが、本県が有する様々な魅力のうち、本年度は、「観光」、「農畜水産物・県産材」及び「文化・芸術」に関する魅力度向上対策について調査することとし、例えば、「別紙」のとおり、『危機終息後を見据えた新たな観光施策の展開に関する調査』、『世界に誇る「ぎふブランド」の創造と発信に関する調査』、『本県の新たな魅力を引き出す地域が誇る文化・芸術の活用に関する調査』の三項目を取り上げたいと思うが意見はあるか。

（「なし」の声あり）

○玉田和浩委員長

意見等もないようなので、本年度は、案のとおり調査していくことに決定した。詳細については、正副委員長に一任願う。

○玉田和浩委員長

それでは、重点調査事項を踏まえ、本年度の調査項目に係る所管事務事業ついて説明をお願いする。

また、執行部の紹介もあわせてお願いする。なお、説明員については、調査項目を担当する部局を中心に、出席をお願いしている。

質疑は説明終了後にお願いする。

（執行部　挨拶・紹介・説明）

○玉田和浩委員長

説明に対する質疑はあるか。

○村下貴夫委員

「岐阜の宝もの」の現状はどうか。

○渡部観光企画課長

現在、「岐阜の宝もの」として６つの資源を認定し活用している。今後は、サステイナブル・ツーリズムの観点を取り入れ、ブラッシュアップや資源の掘り起こしによる、新たな「岐阜の宝もの」を認定していく。

○村下貴夫委員

「新・岐阜の宝もの」事業を実施する経緯は。

○渡部観光企画課長

例えば「小坂の滝めぐり」、「乗鞍山麓五色ケ原の森」、「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」、「中山道ぎふ１７宿」等は、「岐阜の宝もの」として磨き上げてきたことで、観光資源として魅力が向上している。今後は、世界的な潮流であるサステイナブル・ツーリズムの観点を取り入れて磨き上げと掘りおこしを行う。

○村下貴夫委員

「日本遺産」の現状はどうか。

○渡部観光企画課長

県内の「日本遺産」を観光季刊誌「岐阜っぽ。」で紹介するなど、観光資源として活用している。引き続き県民文化局とも連携を図っていく。

○河田文化伝承課長

県内では、岐阜市「『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜」、高山市「飛騨匠の技・こころ」、揖斐川町「１３００年つづく日本の終活の旅」、中津川市「木曽路はすべて山の中」の４件が認定されている。

○平野祐也委員

木材需給がひっ迫していると聞くが、木材については魅力度向上というよりも需給面をもっと戦略的にやっていくべきではないか。

○伊藤県産材流通課長

現在、木材需給はひっ迫しているが、住宅着工数は今後減少傾向にあるため、従来の住宅向けに加えて、非住宅向けや海外への販路拡大も必要であると考えている。

○平野祐也委員

輸入材が入ってこないと聞くが、住宅向けに力を入れるべきではないか。また、海外への輸出はどのようなモノを考えているのか。

○伊藤県産材流通課長

輸入材は、住宅の梁桁という横向きに使用する木材に多く使われている。強度面から輸入材から国産材へのシフトは急にはできない。国産材の製品開発などを支援していきたい。平成２７年度に木材輸出協議会を設立し製品輸出に取り組んでいる。中国・台湾では内装材の需要が高いことから、板材の製品開発等を進め海外販路開拓に取り組んでいく。

○平野祐也委員

オンラインを活用した魅力発信について、複数ある県のユーチューブのチャンネルを一つに統一した方がよいのではないか。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

現在、ターゲットに応じて国内向け、海外向けに切り分けて観光情報を発信している。伝統文化や県産材、県産品といった岐阜の魅力について各分野と相互に利用できるものはしっかり連携して発信していきたい。

○伊藤秀光委員

「戦国武将観光をテーマとしたプロモーション」事業の内容は。このコロナ禍の状況を踏まえ、どのようにプロモーションをするのか。

○金武観光資源活用課長

市町村と連携し、県内各地に散在する歴史資源を戦国観光で繋ぐ事業である。関ケ原で行うイベントのほか、写真コンテスト、お土産物の開発、市町村と連携し県内外の戦国武将関係イベント等へのブース出展などのプロモーションを行う。イベントについては、コロナ前のような形ではできないが、感染防止対策を徹底して開催したい。また、コロナの状況によっては中止も含め検討する。

○伊藤秀光委員

感染防止対策に十分留意してやっていただきたい。

中国で開催される東アジア農業遺産学会とはどのようなものか。

○辻里川振興課長

日本、中国、韓国の３ヵ国が持ち回りで開催しており、世界農業遺産に関する取組みなどを発表するシンポジウムなどを行っている。昨年度中国で開催される予定だったがコロナの影響で延期となり今年開催される。日本では過去２回開催実績がある。

○伊藤秀光委員

岐阜県も発表することができるのか。

○辻里川振興課長

認定地域であるため、機会をいただけると考えている。まだ詳細は決まっていないため確定ではないが、準備は進めている。

○平野祐也委員

例えば各務原市にある鵜沼城のように、地元の人でも知らないような戦国・武将観光に関わる資源が県内には多数あるので、コロナ禍においてはこうした資源を県民向けにＰＲしてはどうか。

○金武観光資源活用課長

史跡や山城巡りは、マイクロツーリズム、オープンエアという観点から、コロナ禍において非常にマッチすると考える。

県内には、東美濃の山城等素晴らしい観光資源がある。地域に散在する歴史資源の掘り起こしは、地域で暮らす誇りの醸成にもなることから、市町村と連携し、県外のみならず県内にも力を入れてＰＲをしたい。

○村下貴夫委員

養老公園の整備は観光振興につながるが、県の窓口はどこか。

○清水都市公園課長

公園整備の窓口は都市公園課が担当するが、人を呼び込む方策やＰＲについては、都市公園課だけでなく、観光国際局と連携しながら進め、より多くの利用者を呼び込みたい。

○金武観光資源活用課長

都市公園は、コロナ前は年間８００万人、県の観光入込客数のおよそ２０％を占める非常に貴重な観光資源であり、特に養老公園は、コロナ禍においても順調に来園者数を伸ばしている非常に魅力的な観光資源である。

今後、都市公園の来園者を県の他の観光資源への周遊観光に結び付けるということについても取り組んでいきたい。

○村下貴夫委員

調査項目にある新たなブランドの候補はあるか。

○渡部観光企画課長

調査項目としての新たなブランドは、これから調査を進めていくことになると考える。

○布俣正也委員

コロナ禍において志向が高まっているアウトドア観光をどう進めるか。

○渡部観光企画課長

中部山岳国立公園、養老公園をはじめとした都市公園、「岐阜の宝もの」である「乗鞍山麓五色ケ原の森」や「小坂の滝めぐり」などの自然観光資源については、県観光公式サイト「ぎふの旅ガイド」で特集を組みプロモーションしていく。

○伊藤秀光委員

インバウンド向けのプロモーションについて、コロナ禍でどのように進めるのか。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

海外からの観光客受入れの再開時期について、秋、１月、４月の３パターンを想定。旅行博や商談、オンラインなど、再開時期や対象地域に応じた対策を取るとともに、自然体験やドライブ旅行といったオプショナルツアーの造成やＭＥＯ対策など、民間業者と連携しながら再開に向けた準備を進めていく。

○野村美穂副委員長

岐阜県は十分すぎるほどの魅力があり、これをいかに発信していくかがとても重要だと考える。県全体、また、観光全体で魅力を発信していく上で情報発信の在り方の方向性を教えていただきたい。

○池戸観光誘客推進課長

海外向けには一昨年、専用ホームページをつくり、統一したブランドで発信しているが、国内向けのホームページは１０年前に作ったものであることから、今年度改修する予定。ＳＮＳでも様々な情報発信をしているため、ホームページと連動させるとともに、デジタルマーケティングの手法を用い、得られた情報を観光施策に繋げていく。

また、県全体として、広報課とも連携を取りながら、情報発信していきたい。

○野村美穂副委員長

調査項目にある「ぎふブランド」について、どのように考えているか。

○渡部観光企画課長

「ぎふブランド」は、多種多様な魅力を包含したものであると認識している。

○森益基委員

施策の説明の中の「県オリジナルブランド品種の開発」の具体な施策について、オリジナル品種とは何か。また、新規就農者など経験が浅い生産者でも安定生産できる栽培管理というのはどういうものか。

○石垣農政課農業研究企画監

この施策は次世代農畜産物研究プロジェクトとして、７つの研究課題をテーマとした研究事業であり、「ブランド力強化」と「担い手確保」の２本柱。ブランド力強化のためのオリジナル新品種開発の柱は酒米。現在、岐阜の酒米のほとんどは、県が開発した「ひだほまれ」であるが、これは中山間地向け品種であるため、今後は平坦地での生育に適した酒米の開発に取り組む。担い手確保では、新規就農者に対して安定生産できる栽培管理の支援をしている。県内の新規就農者は、トマトが多いが、新規就農者のための経営モデルとしては、栽培する品目のバリエーションが多い方が良い。現状のトマトに加え、それ以外の品目を検討している。また、ＩＣＴ活用をすると、温度や環境整備を自動化することでマニュアル化が図れる。経験の浅い新規就農者でも、マニュアルに沿って安定した生産が見込めるため、マニュアル化を確立する研究を進めている。

○森益基委員

鮎王国の復活に関する予算額が約５億円と大きいが、何に力を入れているのか。

○桑田里川振興課水産振興室長

鮎の漁獲量を全国一位にする目標を掲げており、そのためには県内に生息する鮎を増やすことが必要。放流鮎の増加のため、鮎の種苗を供給する魚苗センターの老朽化した施設の改修費が約４億円である。また、昨年は、コロナと７月豪雨により鮎資源が減少したため、県が行う放流及び国の交付金を活用し漁協が行う放流への支援事業が約７千万円。

その他、担い手を増やすため、「清流長良川あゆパーク」における魚に触れる楽しさを知ってもらうための体験や漁協による釣り教室等の開催を支援している。

○森益基委員

中津川市では、神社仏閣に携わる匠の技術がある。匠の技術を観光で取り上げて発信してはどうか。

○渡部観光企画課長

本県の誇る「匠の技」といったコンテンツも関係部局と連携しながら発信していく。

○伊藤県産材流通課長

県産材流通課として非住宅部門の人材育成として木造建築マイスターを養成している。これまでに１７名を育成した。引き続き伝統建築や非住宅建築を担う人材を育成していく。

○玉田和浩委員長

質疑も尽きたので、所管事務事業の説明聴取を終了する。

○玉田和浩委員長

次に、「令和３年度の委員会活動について」であるが、特別委員会の視察については、配布した『委員会視察要領』、『委員会視察に関する申し合わせ事項』のとおりである。視察先等については、必要性を十分に勘案し、委員をはじめ、関係者と調整のうえ、決定していくこととし、詳細については、正副委員長に一任願いたいが、異議はないか。

（「異議なし」の声あり）

○玉田和浩委員長

異議がないようなので、そのように進めさせていただく。

これをもって、本日の委員会を終了する。

魅力度向上対策特別委員会配席図

令和3年5月11日

第1会議室

出入口

農政課 農業研究企画監 石垣　要吾	
里川振興課 水産振興室長 桑田　知宣	県産品流通支援課 東京オリンピック・パラリンピック県産品活用促進対策監兼販路開拓推進監 桑原　由香
農産物流通課 東京オリンピック・パラリンピック農産物販売対策室長 長谷川　裕紀	都市公園課 花フェスタ記念公園企画推進室長 小池　貴久
里川振興課長 辻　博之	都市公園課長 清水　浩二
農産物流通課長 高木　賢二	観光国際局副局長 渡辺　幸司

観光資源活用課 関ケ原古戦場活用推進室長 吉村　竜一	
観光資源活用課長 金武　雅人	
観光企画課長 渡部　達弥	
観光国際局長 矢本　哲也	

観光誘客推進課 観光誘客企画監 加藤　英彦	文化創造課 芸術文化企画監 高井　哲也
観光誘客推進課長 池戸　克成	恵みの森づくり推進課 ぎふ木育推進監 古沢　弘康
文化伝承課長 河田　哲也	県産材流通課長兼 東京オリンピック・パラリンピック県産木材利用促進対策監 伊藤　修宏
文化創造課長 青木　伸秦	恵みの森づくり推進課長 長屋　秀樹

傍聴席・記者席

傍聴席・記者席

出入口

森(益) 委　員	小川(祐) 委　員
平野(祐) 委　員	平野(恭) 委　員
澄　川 委　員	伊藤(英) 委　員
布　俣 委　員	伊藤(秀) 委　員
村　下 委　員	

議会事務局

議会事務局

玉　田 委員長	野　村 副委員長